



私の研究について

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 大阪公立大学都市科学・防災研究センター『都市と社会』編集委員会 公開日: 2024-04-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 潘, 山海 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24729/0002000561

(特集：都市研究の最前線)

私の研究について

潘山海 (都市科学・防災研究センター特任准教授)

1. はじめに

私は院生(修士&博士課程)時代から、既に身につけた多言語能力を生かしたいという志で経営管理学範疇に属するグローバルビジネス(企業や社会団体のグローバル展開における経営諸問題: ヒト・モノ・カネ・情報にまつわる問題)を研究しはじめた。その後、企業のグローバル経営の諸問題の中に、経営者を一番悩ますものが広義のヒト・情報問題、即ち異文化適応問題、或いは異文化コミュニケーションという問題に気づかされ、研究のテーマを異文化コミュニケーション関連に絞り、論文を書いたり、多国籍企業のグローバルビジネス顧問をしたりしてきました。実は、私がいま担当させていただいている、大阪市立大学都市研究プラザが2010年に創刊した国際ジャーナル City, Culture and Society (CCS/Elsevier)の編集業務や関連のグローバルなコミュニケーション活動も、グローバルビジネスと異文化コミュニケーションの両方の知識や経験を生かしております。

2. グローバルビジネスについて

まずグローバルは、「地球規模の」とか、「世界的な」ということを意味します。ビジネスは広義的に言うと、企業や団体がある目的を達成するための、日常的な営みを意味します。これは単なる金儲け活動ではなく、社会的な利益の追求も含まれています。

一言でグローバルビジネスと言っても、様々な考え方があります。特に昨今のSDGs経営やESG経営を推奨・強調される中、私が思うグローバルビジネスとは、企業や団体の営み活動を国境越えて、多国的にひいては地球規模的に展開することを意味し、これらの活動は、経営資源とされるヒト・モノ・カネ・情報の

地球規模的な展開とやり取りを通じて、地球全体の利益やサステナビリティの追求を意味します。

グローバルビジネスの研究内容は、経営学研究の一般内容をベースに、国境を越えて移動する経営資源(ヒト・モノ・カネ・情報)の経営目的達成への有効利用を妨げる諸問題への探求ですが、私が特に注目しているのはヒト・情報にまつわる異文化コミュニケーション問題です。

3. 異文化コミュニケーションについて

世界のグローバル化が進む中、個人や組織(特に企業・団体)が異なる言語・文化を持つ人々や組織との接触や交流、商取引、共同作業、引いては「共存・共栄」を図らなければならない時代にきています。特に近年において就職試験や海外派遣、企業の人材育成などにも異文化コミュニケーションのテーマがしばしば出され、その能力を測れるようになってきました。つまり、異文化コミュニケーションやその能力はグローバル時代の社会生活の中では欠かすことの出来ないテーマの一つとなっています。

しかし、異文化を持つ人々との交流や共同作業の遂行は決して簡単なことではありません。特に外国にいたり外国人とやり取りしたりする場合、自文化意識のままに行動すれば、事がうまくいかないどころか、時には誤解や不信、事件・事故などを招くことにもつながります。私の研究やコンサル体験では、近年日本企業の対外進出が増加する一方、異文化コミュニケーション障害による誤解や不信、事件や事故、進出の失敗なども頻発しています。対外ビジネス広く言えばグローバルビジネスを携わる人々からは、「こんなはずで

はなかった」と、よく耳にさせられる言葉の一つにもなっているぐらいです。これは所謂異文化コミュニケーション障害現象です。これらの障害現象の発生を防止するためには、事前の異文化コミュニケーション知識や問題事例の勉強が必要不可欠と言えよう。

異文化とは、異なる環境に生まれ、異なるコミュニティに共有され、習慣になっている異なる思考方式や行動様式及びこれらの結果表現の全てを指します。

コミュニケーションとは、人が互いに意思・感情・思考を伝達し合うことで、言語・文字その他視覚・聴覚に訴える身振り・表情・声などの手段によって行う情報交換活動を指します。

異文化コミュニケーションとは、性別・年齢・職業・出身地・社会的地位など自分とは異なる価値観や環境の相手とのコミュニケーションを意味します。異文化コミュニケーションと聞くと、多くの方が「自分 vs. 海外」の構図をイメージし、外国人とのコミュニケーションを思い浮かべるかと思いますが、実は異文化コミュニケーションは外国人とのコミュニケーションに限ったものではありません。もちろん、同国人（日本人）同士のコミュニケーションにおいても異文化的な要素は存在しています。

異文化コミュニケーションにおいて、一番大切なのは、「客観性を持ち、自分と相手の違いを理解しあい、尊重しあう姿勢・態度」です。人は自分とは違う常識や価値観の人とコミュニケーションを行う際に、自分の常識や価値観を相手に押し付けてしまうことがあります。このことこそが異文化コミュニケーションの障害要因となります。大切なのは違いを「非常識」と捉えるのではなく、「異常識」だと捉えて対応することです。異なる常識つまり「異なる文化」を理解し尊重することではじめて異文化コミュニケーション能力が研成し、異文化コミュニケーションを障害なく達成できます。異文化コミュニケーションは実に面白い研究テーマです。